

2023年度事業報告書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

公益財団法人日本バドミントン協会

1. 事業目的

この法人は、我が国におけるバドミントン界を統轄し、代表する団体として、バドミントンの普及振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。

2. パーパス・ビジョン

2023年6月新体制発足後、バドミントン界として目指す方向性・目指す状態として「パーパス・ビジョン」の策定に着手。200万人オンラインコミュニティによるバドミントンへのコメント調査とグループインタビュー、本会及び関係者約700人のアンケート調査を行い、バドミントンの価値や社会的存在意義を明確化した。これらの調査検討過程を経て、本会の「パーパス・ビジョン」の言語化（キーワード化）を行っており、2024年度4月に公式発表を行うこととした。

3. 事業内容

(1) 普及指導事業

加盟団体及び関連組織との連携を図り、ジュニア世代の育成を目的とする大会や加盟団体の活動への助成を行う。また、バドミントン用具検定審査・認定及び競技規則書の発行等による競技普及を促進する。

(2) 競技運営事業

国際大会及び国内1種大会等を主催し、選手にとって安心、安全な競技環境を提供することで競技レベルの向上を推進する。

(3) 競技力向上事業

指導者や審判員の育成を推進し、選手の競技力の向上と代表チームの強化を行い、国際大会で常に上位の結果を獲得し、世界のバドミントン競技をリードする。

4. 事業報告

(1) 普及指導事業

①第32回全国小学生バドミントン選手権大会

スポーツ振興及び普及はもとよりスポーツを通じた健全育成を目的とした大会を2023年12月22日から12月26日まで、男子の部団体49団体、女子の部団体49団体、6年生以下男子単42名、同複34組、女子単42名、同複34組、5年生以下男子単36名、同複34組、女子単36名、同複34組、4年生以下男子単34名、同複34組、女子単34名、同複34組の参加により沖縄県那覇市、豊見城市で開催。

②第24回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

早期よりバドミントンに興味を持ってもらい、選手の発掘、健全育成、競技力の向上と振興を目的とした大会を2023年8月13日から8月22日まで男子Aグループ62、同Bグループ53、同Cグループ49、女子Aグループ61、同Bグループ53、同Cグループ49の参加により香川県高松市で開催。

③第39回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

全国の小学生にバドミントン競技への機会を広く提供し、競技を通じて相互の交流を深めると共

に、体力の向上、健全で豊かなスポーツの育成を目的とした大会を 2023 年 7 月 28 日から 7 月 31 日まで、男子の部 48 チーム、女子の部 48 チームの参加により京都府長岡京市で開催。

④第 5 3 回全国中学校バドミントン大会

中学生に正しい技術の習得を図り、心身の健全な育成を目的とした大会を 2023 年 8 月 20 日から 8 月 23 日まで、学校対抗男子 24 校、女子 34 校、個人対抗男子単 56 名、同複 56 組、女子単 56 名、同複 56 組の参加により高知県高知市で開催。

⑤第 2 4 回全日本中学生バドミントン選手権大会

中学生の健全育成に寄与することを目的とした大会を 2024 年 3 月 22 日から 3 月 24 日まで、都道府県対抗男女混合団体 49 チームの参加により大分県大分市で開催。

⑥第 5 2 回全国高等学校選抜バドミントン選手権大会

高校生の交流と技術指導を目的とした大会を 2024 年 3 月 24 日から 3 月 28 日まで学校対抗男子 50 校、女子 50 校、男子単 32 名、同複 32 組、女子単 32 名、同複 32 組の参加により滋賀県大津市、草津市で開催。

⑦第 4 1 回全日本レディースバドミントン選手権大会

バドミントンの普及と競技力の向上、また、参加者を通じての啓発を目的とした大会を 2023 年 7 月 27 日から 7 月 30 日まで都道府県対抗の部 37 チーム、クラブ対抗 45 チームの参加により長崎県長崎市、諫早市で開催。

⑧第 1 8 回全日本レディースバドミントン競技大会（個人戦）

バドミントンの一層の普及・発展を目的とした大会を 2023 年 11 月 23 日から 11 月 26 日まで、ダブルス個人戦で実施し、43 都道府県、実人員 1,352 名の参加により東京都調布市で開催。

⑨用器具検査並びに認定

競技用具を調査、研究及び検査し、規格に合格した用器具を認定して、愛好者が安心して競技に臨む環境を提供した。検定審査会を年 3 回に増やし、6 月 17 日、10 月 28 日、2 月 4 日に開催し、ウェア、ラケット等の認可時期を検定審査の 2 か月後に短縮して通年で愛好者のニーズに対応する体制とした。

⑩ルール教本発行、トスコイン販売、物販システム運用開始

競技規則並びに諸規程の周知徹底、各都道府県協会や 8 連盟が審判講習会・審判員資格検定会等において使用するために、また、3 級・準 3 級公認審判員資格検定会でルールを分かり易く周知徹底させるためのルール教本「2023 年版 3 級・準 3 級公認審判員資格検定会ルール教本（緑本）」を発行した。これにより常に新しい競技規則等の正確な資料を提供し、正しいルールに基づく円滑な試合運営の実施と公認審判員有資格者の増員、資質の向上を図った。

審判時に使用するオリジナルトスコインを製作、販売開始した。トスコインサイズを世界基準とすることで、視認性、操作性を向上させ、試合運用の円滑化に貢献した。

競技規則書（赤本）、ルール教本（緑本）等の販売方法の変更（物販システムの運用）を行った。これにより、注文管理、入金管理、発送業務のシステム化が実現し、事務局業務の効率化、発送手続きの短縮化、更に、各都道府県協会においては、振込手数料の節約、発送期日の短縮に寄与した。

⑪会員普及

加盟団体と連携し、会員数の増加に努めた。また、会員登録システムの活用により、電子化された会員証及び審判員手帳等の機能を維持し、都道府県協会の会員登録業務の利便性を図った。

⑫指導教本発行

コーチ3、コーチ4の養成講習会・更新研修会用公式テキスト（アドバンスコーチ）を2023年12月末に発行した。

⑬広報活動

都道府県協会との一体化した広報活動と、インターネットを利用した情報提供の内容を充実する。また、情報ネットワーク及びマスメディアなどにより、愛好者の拡大を図るとともに、PR啓発活動を進める。

⑭連盟に対する助成

学生連盟、高体連、中体連、小学生連盟、教職員連盟、レディース連盟、実業団連盟、社会人クラブ連盟の全8連盟に対し、より活発な組織活動推進を図るべく助成した。

⑮小・中・高一貫指導

「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高一貫の指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を図った。

⑯バドミントン・アーカイブの収集・整理・公開

本会の歴史やバドミントン競技の歴史を残すことにより、本会の存在意義、バドミントンの魅力を多くの人々と共有し、バドミントンの発展に寄与するため、加盟団体等から寄贈を受けた周年記念誌等を電磁的に記録し、公開した。また、1種大会の結果報告書及び大会プログラムを電磁的に記録し、公開を行った。

⑰バドミントンファンクラブ

競技者のみならず幅広くバドミントンを楽しむ愛好者への情報提供、観戦機会提供を目的としたファンクラブ（BIRDMEMBERS）を運営し、2024年3月末日現在有料会員2,085人、無料メールマガジン会員12,653人を獲得した。

(2)競技運営事業

〈国内大会〉

① 第16回全国社会人クラブバドミントン選手権大会（個人戦）

2023年6月23日から6月25日まで27種目数1,122人の参加により愛媛県松山市で開催。

② 第73回全日本実業団バドミントン選手権大会

2023年6月21日から6月25日まで男子団体170団体、女子団体33団体の参加により愛知県名古屋で開催。

③ 第74回全国高等学校バドミントン選手権大会

2023年8月16日から8月21日まで男子団体50団体、女子団体50団体、男子単100名、同複100組、女子単100名、同複100組の参加により北海道札幌市で開催。

④ 第62回全日本教職員バドミントン選手権大会

2023年8月22日から8月26日まで男子団体11団体、女子団体7団体、男子成壮年団体8団体、女子成壮年団体3団体、ハイパーエイジ男子団体9団体、一般男子単63名、同複44組、一般女子単22名、同複27組、30才以上男子単47名、同複40組、30才以上女子単8名、同複5組、40才以上男子単35名、同複24組、40才以上女子単4名、同複4組、50才以上男子単39名、同複20組、50才以上女子単4名、同複9組、60才以上男子単22名、同複20組、65才以

上男子単 21 名、同複 13 組、70 才以上男子単 13 名、同複 6 組、55 才以上女子単 10 名、同複 9 組の参加により北海道札幌市で開催。

- ⑤ 第 2 5 回全国高等学校定時制通信制体育大会バドミントン大会
2023 年 8 月 15 日から 8 月 18 日まで男子団体 45 団体、女子団体 44 団体、男子単 96 名、女子単 97 名の参加により神奈川県小田原市で開催。
- ⑥ 第 1 1 回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会
2023 年 8 月 12 日から 8 月 13 日まで 116 組の参加により滋賀県草津市で開催。
- ⑦ 第 4 7 回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会
2023 年 8 月 30 日から 9 月 1 日まで男子団体 12 校、女子団体 10 校、個人戦男子単 16 名、同複 16 組、女子単 16 名、同複 16 組の参加により東京都葛飾区で開催。
- ⑧ 第 6 6 回全日本社会人バドミントン選手権大会
2023 年 9 月 2 日から 9 月 6 日まで男子単 387 名、同複 640 組、女子単 96 名、同複 258 組、同混合複 378 組、実人員 1,086 名の参加により京都府京都市、向日市で開催。
- ⑨ 日本スポーツマスターズ 2023 バドミントン競技会
公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業を 2023 年 9 月 16 日から 9 月 18 日まで男子 26 都道府県、女子 27 都道府県参加により福井県勝山市で開催。
- ⑩ 第 4 2 回全日本ジュニアバドミントン選手権大会
2023 年 9 月 15 日から 9 月 18 日までジュニアの部男子単 75 名、同複 55 組、女子単 79 名、同複 53 組、ジュニア新人の部男子単 112 名、同女子単 111 名の参加により開催愛知県豊田市、刈谷市で開催。
- ⑪ 特別国民体育大会バドミントン競技会
公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業を 2023 年 10 月 13 日から 10 月 16 日まで成年男子 32 団体、成年女子 16 団体、少年男子 16 団体、少年女子 47 団体の参加により鹿児島県指宿市で開催。
- ⑫ 第 7 4 回全日本学生バドミントン選手権大会
2023 年 10 月 6 日から 10 月 12 日まで男子 32 団体、女子団体 32 団体、男子単 99 名、同複 98 組、女子単 97 名、同複 96 組の参加により愛知県名古屋市で開催。
- ⑬ バドミントン S/J リーグ 2023
2023 年 11 月 4 日から 2024 年 2 月 24 日までの間、男子 12 チーム、女子 12 チームの参加により全国各地で開催。TOP 4 及び順位決定戦は、東京体育館で開催した。
- ⑭ バドミントン S/J リーグ II 2023
2023 年 11 月 16 日から 11 月 19 日まで男子 8 チーム、女子 8 チームの参加により佐賀県唐津市で開催。
- ⑮ 第 4 0 回全日本シニアバドミントン選手権大会
2023 年 11 月 3 日から 11 月 5 日まで 50 歳以上から 80 歳以上の部を福岡県北九州市、福岡市、久留米市で開催。2023 年 11 月 25 日から 11 月 27 日まで 30 歳以上から 45 歳以上の部を北九州市、久留米市、春日市で開催。種目数 55、参加人数 3,797 人、延べ 6,075 人参加。
- ⑯ 第 7 7 回全日本総合バドミントン選手権大会
2023 年 12 月 24 日から 12 月 30 日まで男子単 57 名、同複 54 組、女子単 53 名、同複 52 組、混合複 44 組の参加により東京都調布市武蔵野の森総合スポーツプラザで開催。
- ⑰ 第 2 4 回全国社会人クラブ対抗バドミントン選手権大会

2024年2月10日から2月12日までチャンピオンカップの部一般男子団体戦36チーム、一般女子団体戦17チーム、一般混合団体戦4チーム、シニアの部 成年男子団体6チーム、壮年男子団体A6チーム、壮年男子団体B4チーム、壮年女子団体4チーム、年代別混合団体A9チーム、年代別混合団体B9チーム、年代別混合団体C9チームの参加により静岡県静岡市で開催。

⑱ 2023年日本ランキングサーキット

2023年5月27日から5月31日まで男子単32名、同複32組、女子単32名、同複32組、混合複32組の参加により埼玉県さいたま市で開催。

〈国際大会〉

① 大阪インターナショナルチャレンジ2023

2023年3月29日から4月2日まで男子単本戦24名・予選32名、同複本戦24組・予選24組、女子単本戦24名・予選32名、同複本戦24組予選17組、混合複30組、実人員316名（日本選手123名、外国選手193名）の参加により大阪府守口市で開催。

② ダイハツジャパンオープン2023（ワールドツアースーパー 750）

2023年7月25日から7月30日までの6日間、代々木競技場第一体育館で男子単32名、同複32組、女子単32名、同複32組、混合複32組、実人員248名（日本選手41名、外国選手207名）の参加で開催。

③ ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2023

2023年10月18日から10月22日まで大阪府大阪市で開催。

④ 熊本マスタースジャパン2023（ワールドツアースーパー 500）

2023年11月14日から11月19日まで男子単本戦28名予選14名、同複本戦28組予選7組、女子単本戦28名予選3名、同複本戦28組予選5組、混合複28組予選4組、実人員354名（日本選手65名、外国選手289名）の参加により熊本県熊本市熊本県立体育館で初めて開催された。

（3）競技力向上事業

①バドミントンに関する公認審判員及び公認指導者の養成と資格の認定

a) 公認レフェリー有資格者の第1種大会への派遣と資質の向上

公認A級・B級レフェリー有資格者を令和5年度実施予定の全ての第1種年次大会(25大会)及びヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2023にレフェリー及びデピュティレフェリーとして派遣し、大会の運営全般の統一性と公正化を図った。

b) 公認A級、B級レフェリー資格検定会

公認B級レフェリーの育成と定数（全都道府県各1名、9地区各1名、8連盟各1名）の維持を図るために、公認B級レフェリー資格検定会を2月に実施し、5名が合格した。また、公認A級レフェリー資格検定会（学科追試）を2月に開催し、2名が学科追試試験合格した。令和6年度に実技検定を行う。

c) 公認審判員資格検定会

正しい競技規則の習得と審判技術の向上による円滑な大会運営を図るため公認審判員資格検定会を開催し、本会公認審判員の育成を図った。1級審判員検定会は本会が主催し、2級、3級、準3級審判員資格検定会は、地区及び都道府県、8連盟が主催し開催された。検定会においては、本会公認審判員資格審査認定委員が担当した。公認審判員資格登録規程による学科試験、実技試験を

実施し、合格者を各級公認審判員に認定し、各地で実施される大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営に寄与した。

d) 公認審判員資格認定登録

令和5年度公認審判員資格登録規程に定める審判員資格検定に合格した者は、1級32名、2級89名、3級3,882名、準3級8,364名、準3級から3級への移行者は782名で、それぞれ資格登録が完了した。また同規程により、1級164名、2級263名、3級6,331名の有資格者が資格を更新し、1級5名、2級7名、3級541名が再取得をした。有資格者総数は58,944名、1級1,070名、2級1,253名、3級36,777名、準3級19,844名となった。

e) 国際審判員・国際線審の研修及び活動

国際審判員資格既得者の研修・活動として世界バドミントン連盟(以下「BWF」)及びBadminton Asia(以下「BA」)の指名により国際レフェリー、国際審判員、国際線審を国際大会へ派遣した。また、BWF、BAの主催のレフェリー・審判員セミナーが開催され、国内の多くの国際審判員や受験候補生が受講した。熊本マスタース2023において、国際審判員養成セミナーを4名の受講者を対象に開催した。

f) 国際審判員、国際線審の派遣、受入および国際審判員相互派遣事業(イクスチェンジプログラム)、国際審判員の国内開催国際大会への派遣、国際審判員相互派遣事業(イクスチェンジプログラム)を積極的に推進した。また、国際審判員を国内開催の国際大会3大会に派遣。国外の大会にも多数大会派遣した。

g) 公認スポーツ指導者養成講習会

今年度は、公認コーチ3養成講習会(前期大阪市、後期つくば市)を開催し、36名が受講した。また、公認コーチ4養成講習会は過年度受講者対象とし、後期講習会を町田市にて開催。受講対象者6名のうち5名が受講した。各都道府県バドミントン協会が各々のスポーツ(体育)協会と共催で実施する公認スポーツ指導者養成講習会は、公認コーチ1は、岩手県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、新潟県、長野県、石川県、静岡県、愛知県、三重県、奈良県、島根県、岡山県、香川県、佐賀県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の19都道府県で開催された。公認コーチ2は、東京都で開催された。

h) 公認スポーツ指導者全国担当者会議

2023年度の開催はなし。

i) 公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会

2023年度の開催はなし

j) 公認スポーツ指導者の資格更新

指導者資格認定制度に登録された各スポーツ指導者の登録更新のために、4年間に1回受講が義務付けられているコーチ3、コーチ4リフレッシュセミナー(更新研修会)は、今年度は2回開催され89名の受講者が参加した。また、32都道府県協会(延べ41回)で、公認コーチ1・コーチ2資格更新ための更新研修会が実施され、指導者としての資質の向上を図った。なお、公認コーチ3、コーチ4の更新研修会受講者及び各都道府県バドミントン協会から報告のあった公認コーチ1、コーチ2の更新研修会受講者を、公益財団法人日本スポーツ協会へ報告した。

②公益財団法人日本スポーツ協会、BWF及びBAへの加盟と国際貢献

a) 公益財団法人日本スポーツ協会等への代表者派遣

公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）への代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、本競技の発展を図った。

b) BWF 総会等への代表者の派遣

2023年5月26日にメンバーズフォーラム、5月27日に年次総会がマレーシア・クアラルンプールで開催され、本会村井会長及び事業本部西氏が参加し意見交換と交流を図った。

c) BA 総会等への代表者の派遣

2023年4月29日に年次総会がマレーシア・クアラルンプールで開催され、事業本部西氏が参加し意見交換と交流を図った。

④国際貢献

2017年より6年間に渡り続けられてきたBadminton 4 Tomorrow 事業を継続し、大会開催時において日本のバドミントンプレイヤーの使用済みラケットの回収を呼びかけ、新興国のバドミントン発展に貢献する他、各国と連絡をとり、バドミントンの普及発展に必要な協力を模索し実現できるよう努めた。

⑤国際大会への代表者の選考及び派遣

a) スデイルマン杯

2023年5月14日から5月21日まで中国・蘇州市へ役員10名、選手男子12名、女子12名を派遣。日本代表チームは3位となった。

b) 世界選手権大会

2023年8月21日から8月27日までデンマーク・コペンハーゲン市へ役員10名、選手男子11名、女子14名を派遣。男子単で奈良岡功大選手が準優勝、女子単で山口茜選手が、混合複で渡辺勇大選手・東野有紗選手が3位となった。

c) 世界ジュニア選手権大会

2023年10月2日から10月15日までアメリカ・テキサス州へ役員8名、選手男女各10名を派遣。女子複田口真彩選手、玉木亜弥選手組が優勝、女子複山北奈緒選手、須藤海妃選手組、同清瀬璃子選手、平本梨々菜選手組が3位となった。

d) 日韓中ジュニア交流競技会

2023年8月23日から8月29日まで和歌山県で開催。

e) 日韓高校生交流競技会

2023年度の開催はなし。

f) 第38回日韓バドミントン競技大会

2023年4月12日から4月16日まで韓国・大田広域市で開催。

⑥スポーツ医科学研究

公益財団法人日本スポーツ協会、独立行政法人日本スポーツ振興センター及び選手強化本部の各部門と連携し、バドミントン競技の特性を研究しながら、トレーニング技術や目標を達成するためのメカニズムを明確にしていくとともに、スポーツ医科学のサポートスタッフの養成を促進し、併せて資質とレベル及び競技力向上と強化体制を図った。また、医事部として主要大会へフロアドクターや帯同ドクターの派遣を行った。

⑦アンチ・ドーピング対策

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）との協力により、「日本ドーピング防止規程」によるドーピング検査 NF Rep.を5会場で実施し、アンチ・ドーピング対策を実施した。また、ナショナル A 代表はもとより、ジュニア選手へのアンチ・ドーピング教育（クリーンスポーツ研修会、アンチ・ドーピング講習会）を8会場で行った。また、アンチドーピングアウトリーチ活動を3会場で行った。

⑧選手強化

2024年パリオリンピック、2028年ロサンゼルスオリンピック、2032年ブリスベンオリンピック対策プロジェクトと位置付け、男女別に日本代表を編成した。カテゴリーはナショナルチーム A 代表・B 代表・ジュニアナショナルチーム U-19（高校生）・U-16・U-13（小学生）をそれぞれ編成した。選考方法としてはナショナル A 代表・B 代表は全日本総合選手権大会などの国内主要大会、日本ランキング、国際主要大会の成績、世界ランキングを参考に選考した。ジュニアナショナルチームは国内主要大会上位選手及び選考会を実施して選出した。強化方針としてはナショナルチーム・ジュニアナショナルチームともに各カテゴリーで国内合宿・海外遠征等により強化を図り、競技力向上を目的にすべてのカテゴリーで相互交流も含めて該当選手の強化に努めた。ナショナル A 代表ではオリンピック・世界選手権・主要国際大会などでメダル獲得を目指した。ナショナル B 代表では国際大会での世界ランキングポイントの獲得及び競技力の向上を目的に次世代選手を育成し、ナショナル A 代表に送り込むカテゴリーと位置付けた。ジュニアナショナルチームは競技者育成の一貫指導システムを中心としてジュニア選手の競技力向上を図り、オリンピック、世界選手権大会等に備え有望新人を発掘の上、国際大会（世界ジュニア）等に派遣、メダル獲得を目指した。

5. 組織運営

（1）組織改革及びガバナンス強化

① ガバナンス強化

理事会構成を20名から10名（内5名を女性、7名を外部有識者）とし弁護士、会計士、大学教授、企業経営経験者、アスリート委員長等、多様性を確保し、専門性の高いメンバーを選出した。これにより理事と執行部の役割を明確化し、理事による事務局運営への管理、監督機能が強化された。

② 事業運営の土台整備

事務局内に4本部制（総務、事業、強化、企画）を敷き、常駐本部長を配した。各本部における業務責任範囲の明確化と指示命令系統の整備を行った。また、各本部に別途合同委員会を設定し、加盟団体（都道府県協会、各連盟）代表者もメンバーとして参加。事務局メンバーとの課題検討や情報共有がスムーズに実現する情報神経系統を整備した。特に財務・会計については上場企業や財団法人での経理経験人材を採用し、収支予算月次管理、経費管理、蓋然性の高い予算策定が実現した。

③ 体制・しくみの整備

各本部に専門性の高い外部有識者を積極的に採用した他、Office365 や会計ソフト、リモート会議の導入により事務局運営効率化、経費削減を実現した。

④ 権利の整理統合と新規事業開発体制の推進

企画本部を新たに設置し、権利の整理統合と新たな事業収益やスポンサーセールス体制を整備した。これにより2024度には新規スポンサーや新たなビジネスモデルによる新規事業収益の獲得を目指し

ている。

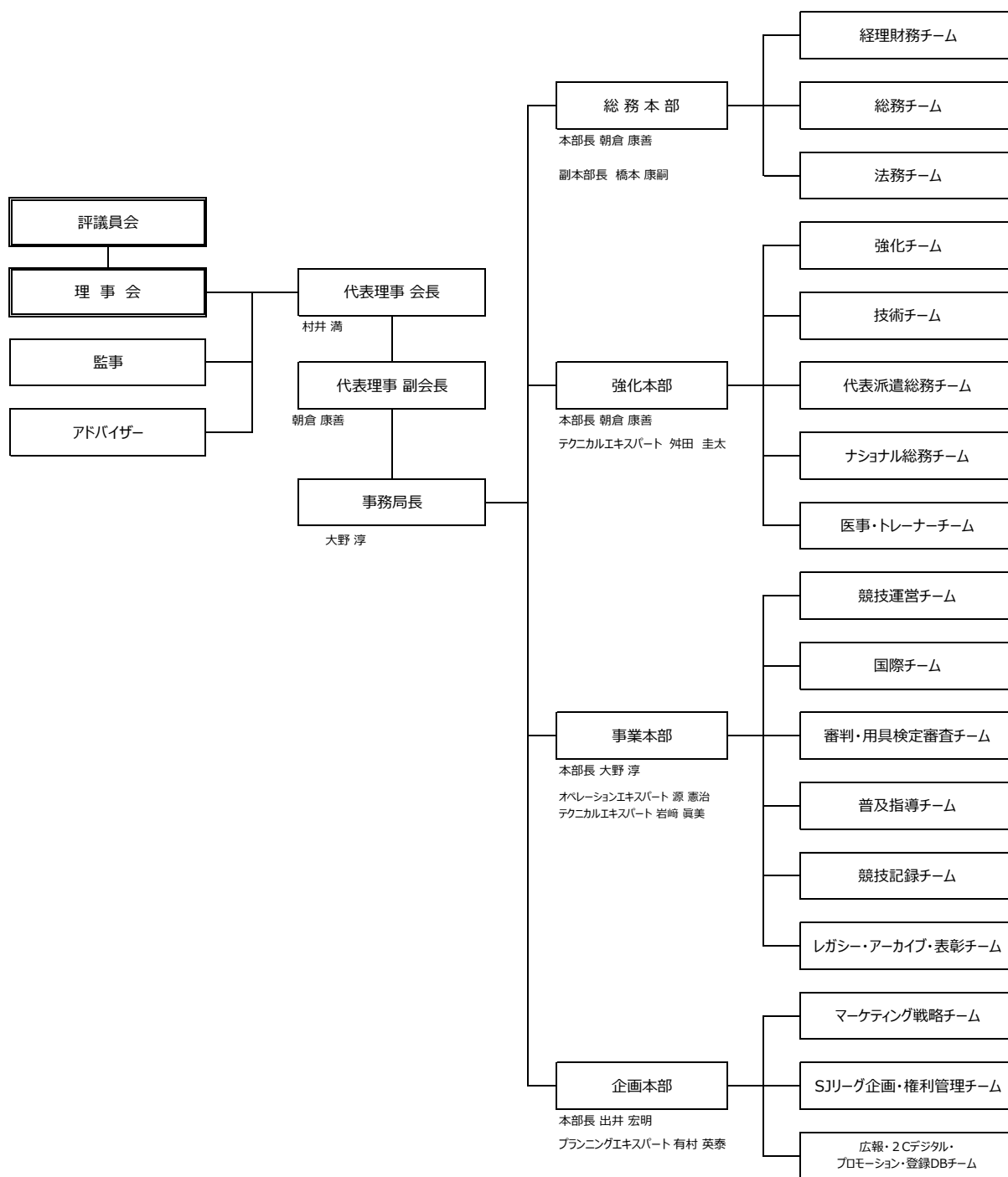
(2) 理事

			主な経験						保有するスキル					
			企業経営経験関連	スポーツ団体経営関連	トップアスリート	バドミントン関係	国際関係	ソーシャル活動	組織マネジメント	マーケティング	IT・デジタル	財務会計	法務・リスクマネジメント	サステナビリティ
1	村井 満	公益財団法人日本バドミントン協会 会長	●	●			●	●	●	●			●	●
2	朝倉 康善	公益財団法人日本バドミントン協会 副会長	●	●		●			●			●		
3	池田 信太郎	日本バドミントン協会アスリート委員会 委員長 (株) Splat 代表取締役フェウンダー			●	●				●				
4	井本 直歩子	一般社団法人SDGs in SPORTS 代表理事	●	●	●		●	●	●					●
5	引頭 麻実	東京ガス(株) 社外取締役	●	●		●			●		●	●	●	
6	大塚 則子	監査法人フロンティアパートナークラウド パートナー	●	●								●	●	
7	小坂 準記	TMI総合法律事務所 弁護士		●			●		●				●	
8	竹内 美奈子	(株) TM Future 代表取締役	●	●				●	●		●			
9	早坂 真有美	(株) Jストリーム 執行役員 プラットフォーム本部長	●			●			●	●	●			
10	原田 宗彦	大阪体育大学 学長		●				●		●				●

(3) 監事

1	小国 久美	公益財団法人日本バドミントン協会
2	河合 明弘	養和監査法人 代表社員
3	木下 健児	

(4) 事務局組織図



以上